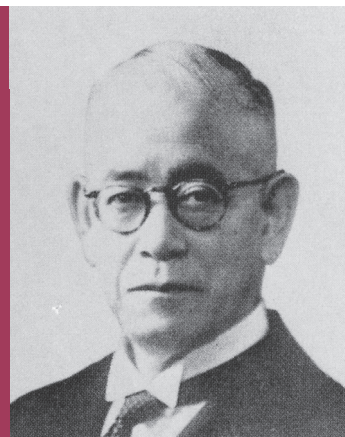


渡辺 三郎 小伝

Saburo Watanabe



渡辺三郎氏は、明治13年（1880年）群馬県松井田町に生まれ、明治40年6月東京帝国大学工科大学採鉱冶金科を卒業、直ちに古河鉱業所に入社し、金属鉱業の事業に従事した。同44年同社を辞してドイツに留学し、アーヘン工科大学冶金研究室に於て、研鑽を積んでDr.Ingenieurの学位を得、なお欧州諸国の鉄鋼工場を視察して大正3年6月帰国。その後わが国における特殊鋼事業振興の重要性を痛感し、同4年11月日本特殊鋼合資会社を創立して自らその代表社員となった。以来欧米先進国の実績を手本に、特に学術研究を基礎として各種特殊鋼の製造を行い、海外よりの輸入の防止に努めた。特に大正5年以後航空機用鋼材の製造を開始し、幾多の難関を突破して遂に優良鋼材製造の目的を達し、陸海軍はもちろん、民間航空機製造所の需要に応じ、自給自足の実を挙げ、わが国航空界も進歩発達に貢献した。また大正11年6月耐食鋼を発明し、それ以来特殊鋼に関する各種の発明を完成し、特許権を得たものは21件に及ぶ。

氏は大正4年9月より昭和6年3月まで東京帝国大学工科大学において金属材料学を講じ、昭和9年商工省工業規格調査委員となり、また日本鉄鋼協会に対しては大正15年4月以降引き続き理事または監事として会務に尽力し、昭和15年4月より同17年3月まで会長の重任に就き、直接間接わが国製鉄業に貢献するところ多大であった。

昭和13年、氏は日本特殊鋼株式会社の名をもって、本会に対し金5万円を寄贈されたので、本会はその申し出に係わる希望条件に基づき、渡辺三郎賞（昭和33年までは渡辺賞と称していたが、渡辺義介賞および渡辺義介記念賞新設に伴い、改称）を制定して、特殊鋼の学術または技術上の進歩発達に貢献した学者、技術者を選んでこれを表彰することとし、今日に至っている。

昭和26年1月8日、氏は脳血栓にて急逝された。享年70才。